

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	基盤教育機構	職名	助教	氏名	赤木 茅
研究課題	Real-Time Economy における経済運営基盤の実装に関する研究				
研究キーワード	Big data, e-invoice, X-Road, Agent Based Simulation, Real-Time Economy	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	1.貧困をなくそう	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>内閣府経済社会総合研究所における、SNA の自動推計手法及び現行の推計手法の検証に関する研究を論文として投稿し採択された。Real-Tim Economy における管理層における会計データの利活用手法に関して海外調査研究の結果及び、開発した各種実装手法に関して博士論文を執筆した。また、Real-Time Economy において取得されたデータを用いた経済分析を可能とする各種条件に関する考察を学会において発表した。</p> <p>千葉商科大学におけるデータサイエンス教育の実践として、大学のオンデマンド,オンライン教育による学習効果及び,大学のホームページの有効性に関して検証した結果をそれぞれ学会において発表した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>赤木 茅, 経済センサス個票を用いた産業別商品産出表(V 表)の推計-供給表推計システムのプロトタイプ開発, 2022, 産業連関—イノベーション&I-O テクニーク第 31 巻第 1 号</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>Kaya Akagi, Hiroshi Deguchi, Yoshihiro Miyake, Research on Real-Time Economy: Bottom-up construction of SNA from micro-transaction data, 東京工業大学,博士論文,2022/03/28</p> <p>千葉商科大学 情報入門 2022 大学生のための情報リテラシー 2021、赤木 茅 他、共著, 2022、千葉商科大学</p> <p>【学会発表等】</p> <p>千葉商科大学における遠隔/対面授業の成績分布の差異に関する分析, SICE 第 27 回社会システム部会研究会, 2022/3/6, 鹿児島県</p> <p>Web ページの情報到達難易度に関する視線計測分析~スクロールによる視線分散の減少~, SIG-BI ビジネス・インフォマティクス研究会 第 20 回研究会,2022/3/12,沖縄県</p> <p>Data and Model Requirements for Real-Time Economy, 第 26 回 進化経済学会, 2022/03/26, 京都(オンライン)</p> <p>【その他の活動】</p> <p>学長プロジェクト CUC公開講座 2021 「実物簿記を用いたマネジメント会計と監査 - SDGs の目標実現のために - 」 2021/05/21</p> <p>大学コンソーシアム 市川 共同FD 「千葉商科大学におけるデータサイエンス教育の現在」 2021/06/26</p>					

和洋女子大学FD研修会 講師「千葉商科大学におけるデータサイエンス教育の現在」 2021/10/26

内閣府 SNA 専門家人材育成プログラム「ビッグデータと統計作成」 2021/02/09

内閣府経済社会総合研究所 客員研究員 (内閣府)

3. 主な経費

学会の年会費,参加費,移動費用のほか, 関連書籍の購入や文具代に使用した. また, PC の購入に関わる費用として来年度への繰越を行った.

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)